

つい先日「年賀式」を済ませたところですが、早くも夏近しでございます。年齢のせいもございませうが、正に「光陰矢の如し」でございます。

毎度格別のお引き立てを賜り誠にありがとうございます。

季節のご挨拶がたダイレクトメール夏季特集号をお届け申し上げます。

昨冬は、寄る年波を言い訳にして欠礼させて頂きましたが、全国多数のお客様方から「社長は病気が大丈夫か」とのお問い合わせを頂き、恐縮の極みにて、夏と冬だけは何かでもお便りさせて頂かねばと、大反省した次第でございます。

殊に昨年末は、三十年の長きに亘りご厚情を賜り続けました「東京店」を、諸般の事情で閉店させて頂いておりました。

そのご恩返しをせねばと、今更ながら考え直しもしたのでございます。

わが魂たまに 大いなるもの 懸かり来て 地球救へと 天皇を責む

眞実眞剣なのでございます。眞実命懸けなのでございます。

同封カタログの裏表紙にも述べさせて頂いておりますが、現行政府などに任せていては、日本も世界も、いいえ人類そのものが滅亡してしまいかねません。

われら日本人に「天皇」を頼るより他に、いかなる方策がありませんや！

同封小冊子の38ページに、眞実不敬かつ身の程知らずながら拙著『救世論文三部作』を一挙再掲出させて頂きました。ご精読賜れますなら幸甚でございます。

以上ご理解とご寛容のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和六年 初夏

覚者 播磨屋助次郎 敬白